

かお・人・interview

2023年10月10日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
別府港湾・空港整備事務所 所長

溝江孝雄氏

Takao MIZOE

別府港湾・空港事務所は、別府港をはじめ大分港、大分空港など複数の出先機関を持ち各港は特徴的な事業内容のため、先入観にとらわれると判断力の低下が生じやすい。そのため、溝江所長は新しい視点で物事を見直すことの重要性を強調している。「港を中心としたまちづくり」をするために何ができるのか、現在取り組んでいる事業や課題などについて話を伺った。

Q 所長就任にあたっての抱負

別府市は古くから日本を代表する観光地として繁栄してきました。その中でも別府港を利用する観光客は、国内外を合わせると年間約26万人(令和4年)に上ります。

その別府港整備を目的として、昭和26年に別府港工事事務所は設置されました。平成15年には現在の別府港湾・空港整備事務所として改称。現在では別府港をはじめ、大分港、県南の佐伯港、大分港海岸、そして大分空港と複数の出先機関を持っており、さまざまなプロジェクトを実施しています。これらの取り組みにより、別府市を元気にし、観光産業を中心とした経済的な発展や、安全・安心な暮らし、より豊かな生活が送れるような「港を中心としたまちづくり」を進めていきたいと思っています。



▲停泊するさんふらわあくれない

Q 大分や福岡県とのかかわり

福岡県内での勤務経験が長く、本局の港湾計画課や空港総室など、それ以外の港湾空港整備事務所(北九州、苅田、関門、博多港湾など)の勤務した経験を合わせると約20年。振り返ると、公務員としての職歴の約半分が福岡県です。その中で特に記憶に残っているのは、地方自治体(苅田町)への出向と本局・空港総室での北九州空港関連の事業に携わったことです。

苅田町では、「交通商工課」という町内の交通施策や商工振興、企業誘致等を行う部署に所属しました。特に港に関しては、国と福岡県で埋立整備を行った土地に対して、町として企業を誘致する業務に従事しました。地域の強みを生かしたアプローチを取り入れ、地域経済の活性化に取り組みました。土地の売却業務など初めての連続でしたが、貴重な経験を積めたと思います。また、空港総室では北九

Q 地域との連携・協働について

別府港の整備計画については大分県と一緒にフェリーの大型化に対応したふ頭の再編計画や、にぎわい空間の創出に取り組んでいきたいと思っています。また、県南の佐伯港岸壁の整備では今後の老朽化や東南海・南海トラフ地震などへの対応として、岸壁の耐震化が急務だと考えています。



▲別府港フードフェス

地域との交流では、「みなとオアシス」という制度があります。みなとの施設やスペースを活用して住民参加型の地域振興に関わる取り組みですが、大分県下では九州第一号認定の「みなとオアシスかんたん港園」をはじめ、「みなとオアシス別府」、「みなとオアシス津久見」の3カ所が登録され、年間を通してさまざまなイベントが開催され、地域の人々に親しまれており、新たな賑わいの拠点となっています。

岸壁と防波堤は誰が作っているか、なぜ必要なのか、定期的にワークショップを開いて港が果たす役割や、業務内容を知っていただきたいと思います。

Q 地域建設業への要望・メッセージ

建設業は地域のインフラ整備を担うと同時に、地域社会の安全と安心を確保する重要な存在です。大分県内の建設業者、港湾協会に属する建設業者の皆さまは、真摯に取り組んでおり、その貢献は欠かせないものとなっています。しかし、県内には海上工事の技術者が少ないのも事実。

例えば、大分港の海岸事業は、南海トラフ地震の津波に備えて整備されており、今後整備する施設は、津波に耐える頑強な構造を持たねばなりません。一方で港の背後では企業活動が行われており、制約がある中で難易度の高い工事を実施している状況です。このような厳しい条件下で施工する技術は簡単に習得できるものではなく、技術者の育成にも力を入れていきたいと考えています。



▲ケーソン据え付け

また「4週8休制」や「ICT施工、遠隔臨場」などDXの活用を進め、ワークライフバランスを考えながら、企業として採算性の取れる工事を発注していくことで、われわれ発注者と建設業者が手を携え、県民のために、より良いものをつくり上げていきたいと考えています。



▲ケーソン据え付け (ICT施工)

Q 趣味や健康法について

運動不足解消に毎朝散歩をしています。主なコースは桜やツツジなど季節の花を堪能できる別府・境川周辺です。朝の清々しい空気を胸いっぱい吸うと、心身がリフレッシュされ新しいアイデアも生まれます。

趣味として数十年続けているのはゴルフです。練習ボールをトラッカー一台分くらい打っていますが、100を切ることができません。今でも成績は気になるものの、一緒に回ってくれる仲間たちとの楽しいひとときはかけがえのない時間です。

当事務所は事業量が多く、また事業内容も前例のないものばかりで、職員も相当な苦勞をしています。この状況を乗り越えていくために、「ゼロベース思考の取り組み」を宣言しています。業務について先入観や過去の事例にとらわれず、とにかくまっさらな視点で取り組むことで、新たなアプローチができると思っています。これにより、業務改善や職員のスキルアップなどにつながると期待しています。

プロフィール



出身地：長崎県諫早市
 生年月日：1964年10月16日（58歳）
 S58年4月 運輸省 入省
 八代港工事事務所 水保分室
 R 3年4月 空港総室・室長
 R 4年4月 鹿児島港湾・空港整備事務所 所長
 R 5年4月 現職